

「幼児期からの育ち・学びとプロセスの質に関する研究」平成30年度調査概要

3歳児から小学校2年生までの育ちと学びを継続的に検討するため、今年度は4歳児を対象に調査します。また、一部の園（6園）では、幼児に面接調査を実施するとともに、「幼児教育における保育実践の質評価スケール（案）」を試行実施します。

（1）アンケート調査

（調査に参加する全ての幼稚園、保育所、認定こども園が対象。100園程度）

①園調査（園長・副園長等、担任保育者対象）：

園長・副園長等には、園の概要、新制度への移行、構造の質、満足感・負担感、リーダーシップ、研修等を尋ねます。

担任保育者には、担当するクラスのプロセスの質、満足感・負担感、研修等を尋ねます。

②子供調査（担任保育者・小学校教師、保護者対象）：

3歳児から小学校2年生までの育ちと学びについての調査です。「育ち・学びを支える力（社会情動的スキル）」、認知的スキル、家庭教育・家庭環境等を尋ねます。

平成30年度は、4歳児対象クラス全員が対象になります。

担任保育者には、担当するクラスの幼児全員についてのアンケートをお願いします。

（2）面接調査（一部の園のみ対象。6園）

より詳細な「育ち・学びを支える力（社会情動的スキル）」と認知的スキルを捉えるため、社会情動的スキル（感情理解、実行機能）と認知的スキル（言葉・語彙、数量図形）に関する面接調査を、平成29年度に3歳児対象クラスに在籍した幼児全員を対象に、継続して行います。

平成30年度の調査は、4歳児対象クラスの幼児のうち、3歳児からの進級児（平成29年度の対象児）に実施します。

（3）「幼児教育における保育実践の質評価スケール（案）」の試行実施

（一部の園のみ対象。（2）と同じ園を想定）

現在、当センターにおいて開発途上の「幼児教育における保育実践の質評価スケール（案）」を3～5歳児クラスで試行的に実施します。具体的には、園を一日訪問し、対象クラスの保育観察を午前中に3時間程度行い、午後に担当保育者等へのインタビューを行います。「幼児教育における保育実践の質評価スケール（案）」の信頼性・妥当性を検証するために必要な試行実施です。

平成30年度は、4歳児対象クラスのうち、一つのクラスを対象とします。